

最善を尽くし、一流を目指そう

学会長 山崎益吉

新入生諸君、入学おめでとう。これから始まる学園生活は、人性の基礎を築く期間です。基礎を確立しなければ、何事も成就することは困難です。私は卓球をやりませんが、フォームがしっかりしていないとうまく打てません。習いたいころ、先輩からフォームの練習をいやというほどさせられました。フォームができてきますと、相手のコートによく入ります。基礎ができると、よく入るし、上達も早まります。4年間、基礎をしつかり身につけてください。授業に出席し、講義に耳を傾けましょう。フォームつまり基礎を築くために、いろいろな角度から教えてくれます。先生方は導師 (Lehrmeister) です。皆さんの前で告白 (Profess) してくれます。告白は読師 (Lesemeister) としてではありません。血の滲む思いで到達した告白です。先生方は最善を尽くし、しかも一流を目指してやってこられた人ばかりです。どうか、新入生諸君もぜひその足跡を学び、最善を尽くし、しかも一流たることを肝に銘じ精進してください。

たんなる知識を吸収するだけでは、一流になることはできません。知識は知恵に転換することによって、初めて生きた知識になります。学問は知識を光らすためではありません。窮してくるしまないために積むものです。願わくば、知恵から胆識に至って欲しいものです。胆識はどんな境遇に置かれようとも、びくともしない知識です。そうした境遇に身をおくことによって初めて、一流目指すことができます。学問は人のために行うのではなく、己のために磨くものであることがわかります。

ややもすると雑事に追われ、学問から遠ざかる危険性

があります。せっかく告白してくれているのに、チャンスを逸してしまうことは残念です。こうなると思考が止まり、進歩がなくなり、木が枯れるように、自らも枯れてきます。最善を尽くさないから当然の報いです。木が朽ちるように、学問から遠ざかったならば、人も同じ運命をたどることになります。

どうか、新入生諸君、最善を尽くし、その上で、一流を目指していただきたい。



経済学部教授。

1942年生まれ。高崎市経済大学、青山学院大学大学院修士課程卒業。文部省の在外研究員としてロンドン大学で研修。1969高崎経済大学助手。講師、助教授を経て1982年教授。日本経済思想史、経済学方法論を担当。横井小楠の儒教的理想社会を経済的視点から追究。横井小楠研究会会長として『新横井小楠全集』（仮題）の刊行に取り組んでいる。